

# 障がいに対する理解を深める研修・啓発活動講師団 ニュース

～障がいの有無にかかわらず、お互いに認め合い、思いやり、支え合う社会をつくるために～

No.3 2014.10.14



社会福祉法人太陽の家から「まちづくり出前トーク」の申し込みがあったので、職員研修に行ってきました。

平成26年9月9日（火）15:00～16:10

会場：太陽の家 集会室

受講者は、社会福祉法人太陽の家職員55人です。講師団からは、佐藤紘造さんと瀧口有香さんが出席して、障がいのある人の保護者、当事者という立場から精神障がいについて話をしました。

## 研修の流れ

- ① **障がいのある人が置かれている状況**（40分間）
  - 精神に障がいのある人やその保護者が置かれている実情を知ってもらいました
- ② **ともに生きる条例が果たす役割**（20分間）
  - 条例の概要を知ってもらいました
- ③ **皆さまへのお願い**（5分間）
  - 受講者へ「障がいに対する理解を深める」「合理的配慮を行う」ようお願いしました



## 統合失調症とは

自分の考えや気持ちがばらばらになり、行動や発言がまとまらず、ぎくしゃくした状態になってしまう「脳」の病気です。約100人に1人弱の割合で誰でもかかる可能性があり、多くは10代から30代ぐらいまでに発病します。発病の原因は明らかにされていませんが、心理的要因ではなく、脳の構造や働きの微妙な異常が原因と考えられています。

と も に 生 き る 条 例



発行：別府市福祉保健部障害福祉課

〒874-8511 別府市上野口町1番15号

TEL：0977-21-1413 FAX：0977-22-1780

E-mail：haw-hw@city.beppu.oita.jp

市ホームページ URL：http://www.city.beppu.oita.jp

## 【佐藤紘造さんからの講話】



全国には、家族会が3万か所ほどある。大分県には公益社団法人精神保健福祉会があり、県下に家族会が12か所ある。その12か所を6ブロックに分けてある。別府は中央ブロック（別府、杵築、速見、姫島）に位置付けられている。中央ブロックには別府さつき会、日出ひので会、国東やよい会の3つの家族会がある。

大分県では、3万人を超える方々が精神病院に通院している。星座オリオン（佐藤さんが運営している就労継続支援B型事業所）には統合失調症の方が多く通所している。この病は大変で、これらの方々は薬を飲んでいる。一生涯薬を飲まなくてはならない。薬を止めると急性期に戻ってしまう。そうなる病院へ入り、幻聴や妄想に悩まされるので、隔離室や閉鎖病棟に入れられる。私の子どもも入退院を繰り返して、もう発病して20数年が経つ。病院の先生にいろいろしていただいているが、ちょっとした薬の変化で状態が悪くなる。そういったことで、この病は難儀なものだと思っている。

精神疾患のある方は、薬を飲んでいるので長く作業ができない。1日2時間どまり。長くても4時間。そこで、星座オリオンでは、まず、通うことから始める。来たらほめてあげる。これを前提に取り組んでいる。作業をする中で、自然に生活リズムを整えてもらう。人間はほめられて悪い気のする人はいない。私はほめて作業をしてもらっている。

精神疾患の方は、「ああしなさい、こうしなさい」と言うと、心を打たれ前に進まない。すぐ後戻りする。それがフラッシュバックになって通えなくなる。そうすると閉じこもりになる。そうなる、いいことを考えない。私も子どもから聞いたことがある。「なぜ、幻聴や妄想があるのだろうか。」頭の中にいろいろ言ってくるらしい。星座オリオンには30人ぐらいの方が通っているが、皆立派な方々だと思っている。

病院は回復までは携わってもらえるが、それから先は薬の治療のみ。我々家族会は家族とのお付き合い。当事者を含めて家族が安心して暮らせるよう取り組んでいる。

精神障がい者が年々増加しているのは事実。平成20年度には323万人に達した。うつ病や気分障がいが増えた。高齢化で認知症が増え、深刻な問題となっている。

平成23年7月に今まで四大疾病だったのが、精神障

がいが含まれ五大疾病になった。ようやく精神疾患のある人への重点的な対策が必要と判断されたわけだ。

精神障がい者の家族は、家族自身が孤立する。家族が病気に対する知識がないまま発病に至っている。こういう病気になると、知られたくないと思うもの。統合失調症は約100人に1人の割合でなる。私の子どもはこの100人の1人になったのだなあとと思った。他の家族の人たちを私たちは救ってあげたのだなあとと思っている。友人や親せき、近所の人にこの病気について知ってもらうことはなかなかできない。閉じこもってしまう。幼少からの教育でこの病気のことを教えてもらってれば、私たちも子どもが病気になったとき、そう慌てずに済んだのではないかとと思っている。私も子どもが病気になったときには隠す一方で、近所に知られたら困ると思った。病気がわかったときは家の中は真っ暗で、誰に話していいかわからない。それが家族の現状だろうと思っている。家族は情報も少なく、地域に社会資源も少ない状況。家族が一生懸命本人を慰めても、なかなか幻聴や妄想には勝てない。病院で治療をしてもらうしか方法はない。

私も当事者の親。子どもの病は、平成3年1月の初めに発症した。私が夕方仕事から家に帰ったら、隣の方から「お宅の子どもさんが側溝をはぐって何か変な行動をしていますよ。」と言われ、これを聞いてびっくりした。とりあえず子どもを家に連れて帰った。その日は金曜日で、土日は病院が休み。近所に病院があったが、親自身に偏見があったので、総合病院がいいだろうと思い、月曜日を待った。金土日と外出せずに本人を慰めた。病院に連れていくとすぐに「精神分裂症（現在の統合失調症）」と言われた。そして、先生から「これは癌と一緒に、賽の河原」と言われた。私にとってはきつい言葉だった。そして子どもは入院して隔離室に入れられた。そのときに筋弛緩剤という注射を打たれ、本人は体中の筋肉が和らいで、よれよれになったような状態だった。2ヶ月後に退院し、ちょうどセンター試験の前だったので、受験もできなかった。そして、一年間浪人をして、ある国立大学に合格することができた。しかし、半年も持たなかった。やはり一人暮らしだと薬も飲まなくなり、生活リズムがくるってしまい、そういう事態になってしまった。本当に私は生きた心地がしなかった。学校に退学届を出し、家に連れて帰り、それから20数年たった今も入院をしている。知らないでいいような薬の本などを本人は読み、薬の副作用などを知って、本当に取り扱いが難しかった。

皆さんは、心の病を持っている方をほめてやってください。本人たちは、いつも3千メートル級の山を登山したのと同じぐらいの疲れがある。いつも20キロぐらいの重りがかかるっての日常生活。薬を飲んだ人でないとわからないこの気持ち。どうか、精神疾患のある方にご理解をいただきたい。